

ましたら、鐵管の中で寝てるお方が仰山おましたが、あれは黒うてもヒイヤリと具合が良えやると思ひます。少々暴れて寝ても縫目が綻びて綿が出るといふ心配もなし、第一朝起きても疊む手数が要りません。夜中に地震が有つて少々重たい物が落ちて来たかて押し潰される氣遣ひなし、誰が考へたのか知りませんが良え寢床が有つたもんで。併し聞いて見ますと、あれにもチャンと權利が附いて居りまして、誰でも勝手に潜り込む譯にはいかんや想でムります。そこは人間御互ひやさかい譲り合ふたら良えやろと思ひますが中々左様はいたしまへん、鐵管で寝る人間は水臭いのやと云ひますねが餘り感心せん話で……。

昔の人が宜え事を申して居ります。

庭に水新らし疊伊豫簾、透綾縮みに色白の美女。成程之は涼しいに違ひムりません。

「コレ倅や。ちよつとこれへ來なされ。……此間からあれほど喧しう云ふてるのに、まだお花を見舞ふてやりなさらんのかいな。」

「へエ……夫れがその……私大體病人の顔見るのが嫌ひな性分で。」

「そりや何ちう事を云ひなさる。あのお花は大體汝の何ぢや。いやさ、何に當る人ぢや。コレ假りにも借老同穴の契りを結んだ女房やないか。病人の顔見るのがいやゝなんてそりや何たる云ひ草ぢや」

「へエ……。」

「へエぢや無い哩。大體汝は氣が移り易い。何時迄親を泣かさうと思ひなさるのぢや。あのお花を貰ふた時の事を思ひ出して見い。夫れ迄は連日連夜夜泊り目泊り、手もつけられん極道を仕腐る。せめては氣に入つた家内でも持たして遣りや身持も直るぢやらうと親の欲ぢや、聽いて見るとあのお花を貰ふて欲しい。あれさへ貰ふて呉れたら一生懸命に精出すと吐し腐つた。先方を調べて見ると御身分と云ひ、本人は元より、御兩親のお人柄、寸分の申し分も無いワ。早速人を以て掛け合ふた處が先方様お眼が高い。不束な娘を左様迄仰有つて下さります事は誠に辱うムりますが、何分まだ年齢が過ぎませぬ。殊に今迄親の手許ばかりで育ちました者で世間様の勝手といふ物が解りません承りますれば其方の若旦那様は随分お遊びになりました何事も知り盡したお方や相で、左様なお方のお傍に居りまして、到底お目まだるい事だらけでお氣に入る筈はムりません。御親切だけは有り難く御受け致しまして、此御縁談はどうぞ今暫く御猶豫をと、先ず體の良えお断りぢや。まあ縁が無けりや仕様が無い。一時諦めて他に良え娘を捜したらと云ふたら、コレ、あの時の汝の狀覺えてるか。死ぬの生きるのと駄々け散らして、果ては見つとも無いオイ／＼泣き腐る。若しやおかしい見でも起しやせんかと、人様にも面目ないが又候頼みに往た處が、それ程迄に思召して下さりますものをお断り申したとムりましては女冥利が恐しう存じます。左様なればお言葉に甘えまして行届かぬ娘を貰ふてお戴き申しませう。行儀作法の道さへも辨へませぬ不調法者何分共未始終